



本号の主な内容

- 2面 全国造園フェスティバル10月6, 7, 8日
会員の参加を募集中
【緑滴】【事務局日より】
- 3面 【技術レポート No.027】
チェルシーフラワー・ショーに出展して
- 4面 【総・支部日より】
北海道総支部・秋田県支部・近畿総支部



あいさつする佐藤四郎 会長

全国事務局長会議 兼雇用管理責任者会議 開催

ビジョン達成に向け取り組み推進

平成19年度全国事務局長兼雇用管理責任者会議が7月17日、東京・千代田区麹町の弘済会館で、総支部・県支部の事務局長ら約60名が集まり開催された。

冒頭、佐藤会長から我が国の経済社会の情勢は大変厳しいが造園建設業界を代表する公益法人として積極的に活動してゆきたいとの挨拶があった。

議事は、平成19年度事業計画及び収支予算、協会運営の基本となる事業計画その予算について、雇用改善推進事業、雇用・能力推進機構から助成を受けて作成

した若年労働者の採用、労働災害の予防に係わる雇用改善実施計画について、技術情報共有発表会、全国各地で蓄積された貴重な造園の技術情報を共有・活用することを目的に今年から開催する「全国造園フェスティバル2007」花と緑で美しい日本をイメージするフェスティバルを今年10月6日～8日を「アワード」して全国で展開して、造園技術の認知度向上等、造園建設業界の市民への理解を深める、造園技術の継承、伝

る要請活動、公共造園工事における総合評価落札方式の運用について、国土交通省及び環境省に対して行った要望活動を総支部及び支部においても地方公共団体、地方部局への要望活動を展開するよう要望書の説明を行った。会情報管理システム、会員データの管理や情報発信の一元管理の実施について、平成19年度の資格制度実施概要、街路樹

剪定士、植栽基礎診断士、

植栽基礎診断士認定試験(学科試験)申込み締切り迫る
植栽基礎診断士認定試験の申込み期間は8月20日までです。お済みでない方は早めにお申込みください。
認定試験は9月2日(日)、14時から16時半まで、全国10会場で開催。受験資格は、植栽基礎診断士補研修会」の修了者で、一級造園施工管理

市「太平洋興発ビル」【東北】仙台市「仙台ヒジネスホテル」【関東】甲信 豊島区「桐葉亭園」【北陸】富山市「富山県支部」【中部】名古屋市中「グリーンステップス」【近畿】大阪市「山西福祉記念会館」【中国】広島市「林業ビル」【四国】高松市「ホテルマリナパレスさぬき」【九州】福岡市「ASCビル」【沖縄】西原町「沖縄県緑化種苗協同組合」

造園基礎技能者の認定試験以上の9議題について、本部から説明が行われた。助成金の説明では、(独)雇用・能力開発機構東京センター企画部門長代理、安藤佳延氏から「建設雇用改善助成金」の活用について、

中小建設事業主などが、雇用の情報交換の掲示板や情報交換を行う場合の経費一部助成や、建設労働者に有給で技能実習をさせた場合、賞金の一部を助成する事例など、具体例を用いて説明していただいた。意見交換会では、総支部

樹林

船橋市は、昭和12年に市制施行し、当時の4万3千人ほどの人口から58万人を擁する中核市に発展しました。首都に近く、鉄道網などが発達していることから、様々な産業が活発に営まれる一方で、大規模な団地造成が行われ、ベッドタウンとしての様相も持っています。また、内陸には美しい緑、南部の東京湾には貴重な干潟「三番瀬」が広がるなど、都市と自然が調和した暮らしやすいまちです。

今年、市制施行70周年を迎え、さらなる発展へのスタートを飾る記念事業として、「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」を開催します。主会場のふなばしアンデルセン公園は、船橋市の姉妹都市であるデンマーク

王国オーデンセ市で生まれ育った童話作家、H.C.アンデルセンにちなみ、子どもたちの心身の健やかな成長を願って建設された公園です。この公園の建設経緯と、未来のまじづくりを担う子どもたちに注目し、ふなばしフェアのメインテーマも

「花と緑」とアンデルセン童話をモチーフとした「アート」が融合した非日常的な空間のメルヘンの丘ゾーン、日本でも最大級のフィールドアスレチック施設や芝生広場を、各自治体に伝わる民話や神話をテーマとした花壇で彩るワンパク王国ゾーン、「祖父母の家に帰ろう」をイメージし、

子どもたちの幸福な未来へ向け10/25 11/4 フェア開催

第24回全国都市緑化ふなばしフェア実行委員会事務局 事務局長 工藤 芳雄



子どもたちの幸福な未来「アンデルセンから、世界の子どものために贈り物」としてしています。

主会場では、「おとぎの国の花フェスタinふなばし」の愛称に相応しく緑豊かな環境の中で、子どもたちが夢や希望を発見するばかりでなく

「子どもたちの幸福な未来」アンデルセンから、世界の子どものために贈り物」としてしています。

主会場では、「おとぎの国の花フェスタinふなばし」の愛称に相応しく緑豊かな環境の中で、子どもたちが夢や希望を発見するばかりでなく

また、ふなばしフェアでは主会場であるアンデルセン公園のほかに、市内全域を対象に「まちかどフェア」を展開します。ふなばしフェアの開催運を高めることも、全国からの来場者を迎えるために主要駅、交

また、ふなばしフェアでは主会場であるアンデルセン公園のほかに、市内全域を対象に「まちかどフェア」を展開します。ふなばしフェアの開催運を高めることも、全国からの来場者を迎えるために主要駅、交

建設事業関係功労国土交通大臣表彰 当協会関係 3氏に栄誉

国土交通省は、07年度の建設事業関係功労者の国土交通大臣表彰を7月10日、同省大会議室で行った。今回の表彰は個人269名、団体5団体が受表彰し、当協会関係として2名、建設行政関係として1名表彰され

- た。表彰者は次のとおり。
- 【都市計画事業関係】
高橋一輔(66)アノラ造園(株)代表取締役社長、日本造園建設業協会理事(東京都)
 - 間世田武裕(65)(株)桂造園 代表取締役、日本造園建設業協会鹿児島県支部長(鹿児島県)
 - 【建設行政関係】
安藤喜一郎(59)前日本造園建設業協会総務部長(埼玉県)

人事異動

- 環境省 (7月10日付)
自然環境局長
櫻井 康好
- 自然環境局総務課長
奥主 喜美

全国から最新情報 技術情報共有会を開催

日造協

日造協は会員を対象に8月28日、13時半から17時まで、東京・港区浜松町のコトブキD・エッセンターで、全国各地で蓄積された貴重な造園の技術情報を共有・活用して、一層の技術力の向上を図ることを、技術情報共有発表会を開催する。

授の講師も行われる予定

【北陸総支部】

【九州総支部】

て（根返り対策、後継樹の育成のための実生、挿し木による育苗に取組んでいる）

【北海道総支部】

【近畿総支部】

また、発表会後は懇談会（会費制）も開催する。発表会への参加は無料。

【関東・甲信総支部】

【四国総支部】

問合せは、日造協本部 03・5684・0011 まで。

発表会には、北海道総支部から九州総支部まで、全国から最新の造園技術が集結し、島田正文日本大学教

る校庭緑化の実現（マンモス小学校の芝生化の設計・設計維持管理のポイント）

また、この経験を通して、かけがえのない人達ともめぐり逢うことができました。苦楽を共にした友人、恩師、先輩、とても親切にしてくれたご夫婦、家族など、本当にたくさんの人達に支えてもらいました。この経験は私にとってとても貴重な経験であり、生涯忘れられない思い出となりました。

頑張ったからこそ
得ることができた大切なもの

私は大学時代、自然環境の保全について学んできました。私の所属していた研究室は野外調査がメインで、調査対象となる植物の生育環境等を調べ、どのように保全していいのかがこのことを研究していました。



緑 滴

普通に着らしていたら経験できなかったこともたくさんあります。調査の結果が予想していたものとは全く違っていたり、自然界の奥深さに圧倒されてしまい、どうしたらいいのか分からなくなったこともありましたが、その度に色々な人と相談し、軌道修正して、何とか論文を書き上げることができました。

夏の暑い日差しの中、雨が降りしきる中、時には雪が降る中、湿地や山の中を隈なく歩き、データの収集に努めました。それはとても大変で地道な作業であり、当時は調査を楽しむ余裕はありませんでした。

もちろん、全く楽しみがなかったわけではありません。春は新緑、夏は小川のせせらぎ、秋は紅葉、冬は雪景色と、四季を思う存分堪能することができました。

辛かったからこそ、全力で取り組んでいたからこそ、調査を終えた時の達成感や充実感は格別なものだったように思います。そして、自分の頑張りや人から認められてきたこと、自分に自信をもつことができたように思います。

また、この経験を通して、かけがえのない人達ともめぐり逢うことができました。苦楽を共にした友人、恩師、先輩、とても親切にしてくれたご夫婦、家族など、本当にたくさんの人達に支えてもらいました。この経験は私にとってとても貴重な経験であり、生涯忘れられない思い出となりました。

（国弘美穂（日産緑化株））

全国造園フェスティバル 10/6~8を中心に開催 会員の参加を募集中

日造協は、花と緑で美しい日本を！をキャッチフレーズに「全国造園フェスティバル」を開催します。フェスティバルは、昨年の都市公園法施行50周年の節目に、日造協のビジョン21の具現化の一つとして、環境と景観の時代である21

世紀に求められる街づくり、地域づくり、美しい国づくりにおいて、素晴らしい造園の技術を生かすため、緑の大切さをはじめ、造園建設業を市民の方々に広く知ってもらおうと企画。初年度ながら、全国84カ所で開催し、テレビや新聞など多くのマスメディアに取り上げられるなど、注目を集めました。

このフェスティバルは、日造協の会員が自主的に行うイベントで、日造協の総支部、支部、会員各社、また、各社の連携などによって、最寄りの公園や地域の核的な公園などを会場に、市民やNPO、行政の方々と協働などによって、自由な発想で「花と緑で美しい日本を」アピールするつもりです。

昨年は、花の種類や苗、土壌、肥料の配布から、園芸相談、園芸教室、剪定の実演、ロブ結び教室、花壇やプランターへの植え付けなど、さまざまな催しが行われました。

今年も工夫を凝らし、市民の方々とともに「花と緑で美しい日本を」育んでいく催しが期待されます。環境緑化関連のイベント

は、近年多く開催されていますが、全国一斉に展開されるイベントは珍しく、注目を集めています。ぜひ、会員各位のご協力「参加をお願いします。」なお、「全国造園フェスティバル」の詳細は、日造協ホームページの「開催要領」をご覧ください。



昨年のイベントはニュースなどでも放映されました

- 【7月】
- 4水・街路樹樹形再生セミナー編集会議
- 5木・「広報日造協」編集会議
- 6金・造園基幹技能者制度推進協議会土木系分科会
- 10火・都市緑化運動協力会議
- 11水・全国造園デザインコンクール運営会議

- 13金・造園基幹技能者運営委員会
- 17火・平成19年度事務局兼雇用管理責任者会議
- 19木・「植栽基盤診断士」認定審査委員会
- 23月・入札契約制度対応分科会
- 24火・横浜市公園遊具安全点検講習会

- 【8月】
- 2木・建設系CPDシステム部会
- 3金・街路樹樹形再生セミナー編集会議
- 31火・国土交通省と建設産業専門団体連合会の意見交換会

- 6月・「広報日造協」編集会議
- 7火・北海道総支部「植栽基盤・労務費対応研究會」
- 9木・正副会長・常設3委員長合同会議
- 28火・技術情報共有発表会
- 31金・街路樹剪定士指導員レベルアップ研修会（関東・甲信総支部）

伊勢神宮の式年遷宮は20年に一度新しい神殿を造営し、大神様にお宮遷りをいただくという神事で、天武天皇の御発意により、持統天皇四年（690年）に内宮の遷宮が行われてより、1300年余り継承されている神宮最大の祭行事です。今回62回目の御遷宮は、既に準備段階の諸行事は平成17年より始まっており、平成25年秋の遷宮の儀に至るまで実に8年にも及ぶ造営工事と祈りを伴った大祭典と言えます。

「お木曳（きびき）」は御遷宮の諸行事の一つで、伊勢の地元民（神領民）が造営に使用される御用材を神宮まで奉曳（ほうびき）する奉仕作業（現在では祭行事となる）です。数回前までは、木曾山中より伐り出されたヒノキの御用材は、木曾川を下り桑名の河口に廻り着き筏に組まれると、伊勢湾を南下して伊勢の大湊に運ばれました。そこから五十鈴川を「川曳（かわびき）」で上げれば内宮へ、一方宮川を上って陸揚げされ、お木曳車で「陸曳（りくびき）」されて外宮へと納められています。現在では両宮とも伊勢までは陸路で搬送されていますが、その後は伝説を継承して地元民（神領民）による昔と同様の奉曳にて納められているのです。

お伊勢さんの「お木曳」に参加して

（三重県部、柳ヶ崎カキリン 川崎健児）

技術レポート No. 027

チェルシーフラワーショウに出展して

内山緑地建設(株) 内山ガーデン&アーボリタム推進室 鳥飼 寛子

今年5月、イギリスのチェルシーフラワーショウに庭園を出展しました。出展を通じていろいろなお人にお会いし、広く造園を考える契機ともなりました。今回その一端を紹介させていただきます。機会を得、ショウや出展庭園の概要、そして出展に当たり考えたことなどを報告いたします。

フラワーショウの概要

イギリス・ロンドンのチェルシーフラワーショウは、1862年から開催されている世界最高峰といわれるフラワーショウです。ショウは、近年各国で盛んに開催されているフラワーショウの先駆けとして、また世界のガーデンデザイナーが、常に出展を夢見る舞台として、常に世界の庭文化をリードしてきました。ショウには毎年、世界各国から600以上の出展者が集まり、約50のガーデン、100を超える花の展示のほか、造園・園芸にまつわるさまざまな業者が最先端の

造園企業初の本格出展

この由緒あるチェルシーフラワーショウでは、各種コンテストも行われ、これまで日本からもさまざまな方々が参加してきました。しかし、造園事業者が社を上げての参加はこれまでなく、今回、内山緑地建設(株)での参加が初めてのこととなりました。

市民の緑への関心高まる

ガーディングブームもその一つで、これまで趣味的と言えた園芸愛好家だけでなく、一挙に一般市民にも広がったガーディングブームの勢いに上手く乗ることができた企業は少ないはずだ。

競う 評価の重要性

今回のチェルシーフラワーショウ2007への出展では、庭園デザイン原案を担い、庭園施工のため、現地へ赴き、ショウの期間中も来場者の方々と触れ合う機会を得ることができました。

直接の声が届く

具体的には、私がデザイナー・植栽を担当。95年のチェルシーフラワーショウで日本人初のゴールドメダルを受賞した二宮孝嗣氏(セイセイナード代表)のコーディネート・デザイン、英国庭園の豊富な知識と経験を持つクリスチャン・ドウル氏(ガーデンインスピレーション代表)の施工協力、庭園がつくられまじ、

素材を持ち寄り、展示を行っている。会場は、ハイドパークやバッキンガム宮殿にほど近いチェルシーブリッジ通りとテムズ川沿いのチェルシー河岸通りの交わる場所にあるチェルシー王立病院の敷地内で、毎年5月下旬に5日間にわたって開催。一般公開の前日には、エリザベス女王陛下をはじめ、英王室関係者が会場にお見えになります。

ショウは英国王立園芸協会(RHS: Royal Horticultural Society)が主催。RHSは1804年創立の英国王立法典による特別法人で、総裁はエリザベス女王です。世界中に約37万人の会員があり、さまざまな情報を発信、園芸普及活動を展開し、日本にも英国王立園芸協会日本支部(RHSJ)が設けられています。

造園業界は、公共事業が増大する中、造園事業として、土木から独立し、発展してきました。このため、事業の受け手として、伝統的な造園技術を基盤に、現在のニーズにあった庭園や公園など、さまざまな緑の空間の創造にあたってきたといえます。

しかし、公共事業の縮減や住宅様式の遷移、さらには人々の生活、価値観の変化はめまぐるしく、こうした時代の移り変わりに敏感に対応できていなかった部分もあるように思います。

実際の園芸技術とは異なり、緑や花の文化的知識を認定する「公園緑地管理財団」が行っている「緑・花文化の知識認定試験」も、お金を払って緑や花の知識を認定してもらう市民がいる

また、昨年から「全国造園フェスティバル」を開催。全国の会員が身近な公園などを会場に、花と緑の普及、業界・協会のアピールを行うイベントを開催し、NHKをはじめ、マスコミにも広く取り上げられ、盛況となりました。当社の取り組みも、業界のこうした取り組みの流れの一つといえます。

内山緑地建設は、1890年に山林種苗の生産販売から発展し、造園工事業に携わっており、日本の伝統的な庭園技法を受け継ぐ企業に比べると、まだまだ歴史も浅い企業です。今回のチェルシーフラワーショウに出展できたのは、こうした背景もあるのかもしれない。

この間、在米日本大使館大使公邸庭園のメンテナンス業務を担当したほか、北九州市の白野江植物公園でグリーンアドバイザーを務め、貴重な体験をさせていただきました。

海外では、競う、ということに慣れているものの、日本ではあまり競う、ことをよしとしない部分もあり、芸術性、感性に関するものだとおさらさらで、日本の細やかな技術、感性がコンテストで評価されるかどうかといった心配もありました。

競う、評価の重要性 今回のチェルシーフラワーショウ2007への出展では、庭園デザイン原案を担い、庭園施工のため、現地へ赴き、ショウの期間中も来場者の方々と触れ合う機会を得ることができました。

直接的な声が届く 具体的には、私がデザイナー・植栽を担当。95年のチェルシーフラワーショウで日本人初のゴールドメダルを受賞した二宮孝嗣氏(セイセイナード代表)のコーディネート・デザイン、英国庭園の豊富な知識と経験を持つクリスチャン・ドウル氏(ガーデンインスピレーション代表)の施工協力、庭園がつくられまじ、

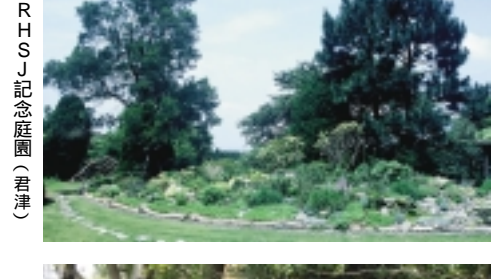
次回、出展庭園の概要 世界各國のフラワーショウの動きと、出展をステップとした今後の展望について紹介します。



出展庭園のイメージ



庭園を訪れたエリザベス女王陛下



RHSJ記念庭園(君津)



花道通のようす

競う、評価の重要性 今回のチェルシーフラワーショウ2007への出展では、庭園デザイン原案を担い、庭園施工のため、現地へ赴き、ショウの期間中も来場者の方々と触れ合う機会を得ることができました。

直接的な声が届く 具体的には、私がデザイナー・植栽を担当。95年のチェルシーフラワーショウで日本人初のゴールドメダルを受賞した二宮孝嗣氏(セイセイナード代表)のコーディネート・デザイン、英国庭園の豊富な知識と経験を持つクリスチャン・ドウル氏(ガーデンインスピレーション代表)の施工協力、庭園がつくられまじ、

直接的な声が届く 具体的には、私がデザイナー・植栽を担当。95年のチェルシーフラワーショウで日本人初のゴールドメダルを受賞した二宮孝嗣氏(セイセイナード代表)のコーディネート・デザイン、英国庭園の豊富な知識と経験を持つクリスチャン・ドウル氏(ガーデンインスピレーション代表)の施工協力、庭園がつくられまじ、

次回、出展庭園の概要 世界各國のフラワーショウの動きと、出展をステップとした今後の展望について紹介します。

総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介しす

講師として、日造協本部の野村技術調査部長にお願しいし、プロジェクトを使い、樹木のおかれている状況、いま、もめられているスペシャリスト、安らぎあふれる未来へ等、要領良い説明が行われ聴講生も聞き入っていた。

北海道総支部は、5月29日に国土交通省北海道開発局の資格審査および評価基準等を担当する「工事管理課」を窓口として、「街路樹剪定士」の説明会を、約20名の参加者で北海道開発局の会議室をお借りして開催した。

北海道総支部

この説明会は、北海道開発局の本局と開発建設部に對して毎年行っている「要望および意見交換会」活動の中で、「街路樹剪定士」に対する協会の熱意は充分に理解ができるので、組織として本局の担当部署等に説明を得ることが必要であるとの示唆のもと初めて開催に至ったものである。



街路樹剪定士 説明会のもよう

大阪の街は、「民」の力で文化が栄え、創造され、育まれてまいりました。しかし、それが現在「民」の誇り高い独立自尊の精神が薄れ、街全体が元気を失っているようになっていきました。



募金によって植樹された樹木。支柱には募金者の名前を記したプレートが取り付けられます

元気な大阪を取り戻そう 「平成の通り抜け」に4億円

近畿総支部

0万人が訪れる「造幣局の桜の通り抜け」に隣接する毛馬・桜之宮から、中之島一帯を中心に1千本の桜を

植え、市民の手で育てていく「平成の通り抜け」をつくっていくつもりです。具体的活動としては、個人・企業からの募金・100万円形で、広く協力をいただき、植樹を行いたい。桜には、募金していただいた方々の名前を記したプレートを取り付けます。自分たちの時代に自分達が

この計画は平成21年3月末まで続けていきます。平成21年度には、計画の

何を成し遂げたか、それを街の記憶として刻み、我々の手で、花と緑に包まれた大阪をつくるという壮大なロマン溢れる大計画です。具体的には、平成16年5月1月から、この計画には全国からも多くのご賛同を得て、たくさんの方々にご支援いただき、平成18年1月

2倍にあたる2000本の桜が植樹される見込みです。後世に残すことのできる生き花と緑の財産「桜の会・平成の通り抜け」をはじめ、今から10年、20年後の桜のあふれる大阪が楽しみます。

ることも目指しており、今後、日造協「街路樹剪定士」の普及活動としては国土交

通本省をはじめとして関係省庁への要望がより一層必要となっていく段階と考

ていることである。(事務局長・高橋勲)

3日目は、秋田市周辺を中心としたオープンガーデンツアーや角館、田沢湖など新緑の秋田を楽しむ観光



基調対談には涌井氏ら3氏が参加して行われた

「07全日本グリーンサミット秋田大会」開催

秋田県支部

これまで全国各地で行われてきた造園文化人交流会の名称も内容も変えて、「07全日本グリーンサミット秋田大会」として、秋田グリーンサミット倶楽部と日造協秋田県支部の共催により、6月8日～10日の3日間、秋田市・横手市・湯上市を会場に開催されました。県

内外から3日間延べ2000人を越える方々に参加を頂き盛況裏に終えることができました。初日は、指定管理者の現状と未来展望を描く「指定管理者サミット」を皮切りに、桐蔭横浜大学の涌井史郎教授をコーディネーターに、前長野県小布施町長の



授をコアに、北海道から沖縄の全国各地で活躍されている15名の方々と共に、「若手経営者サミット」「グリーンサミット」「人と花の輝くまちづくり」「V1戦略による地域づくり」「花と緑で健康づくり」「オープンガーデンの魅力」のセッションが4会場同時進行で行われ、各会場とも多くの人たちの熱気に包まれました。朝方小雨模様であったが、さわやかな風が吹く屋外の会場は熱心な人たちでいっぱいとなりました。

唐沢彦三さん、キャスター&ジャーナリストの須磨佳津江さん、秋田大学医学部長の本橋豊教授をパネリストに迎え、「宇宙に響く青い地球行進曲〜美しい人美しい国土を創る〜」と題してコアサミット基調対談が行われました。花と緑が健康づくりや地域づくりと密に繋がっていることを、それぞれの専門分野からの

事例を織り込んだ熱い対談に会場は一体となりました。2日目は、涌井教授、唐沢さん、須磨さん、本橋教

授をコアに、北海道から沖縄の全国各地で活躍されている15名の方々と共に、「若手経営者サミット」「グリーンサミット」「人と花の輝くまちづくり」「V1戦略による地域づくり」「花と緑で健康づくり」「オープンガーデンの魅力」のセッションが4会場同時進行で行われ、各会場とも多くの人たちの熱気に包まれました。

授をコアに、北海道から沖縄の全国各地で活躍されている15名の方々と共に、「若手経営者サミット」「グリーンサミット」「人と花の輝くまちづくり」「V1戦略による地域づくり」「花と緑で健康づくり」「オープンガーデンの魅力」のセッションが4会場同時進行で行われ、各会場とも多くの人たちの熱気に包まれました。

- ④ オープンガーデンなどについて語る有山忠男さん⑤と須磨佳津江さん⑥
- ⑦ 若手経営者サミット
- ⑧ 小泉湯公園に集まった参加者

「共感・協働・共創」をキーワードに、全国各地から「みちのく秋田」にお出でを頂きました皆様、そして多くのご支援、ご協力を頂きました皆様、誠にありがとうございました。

(秋田県支部事務局)